

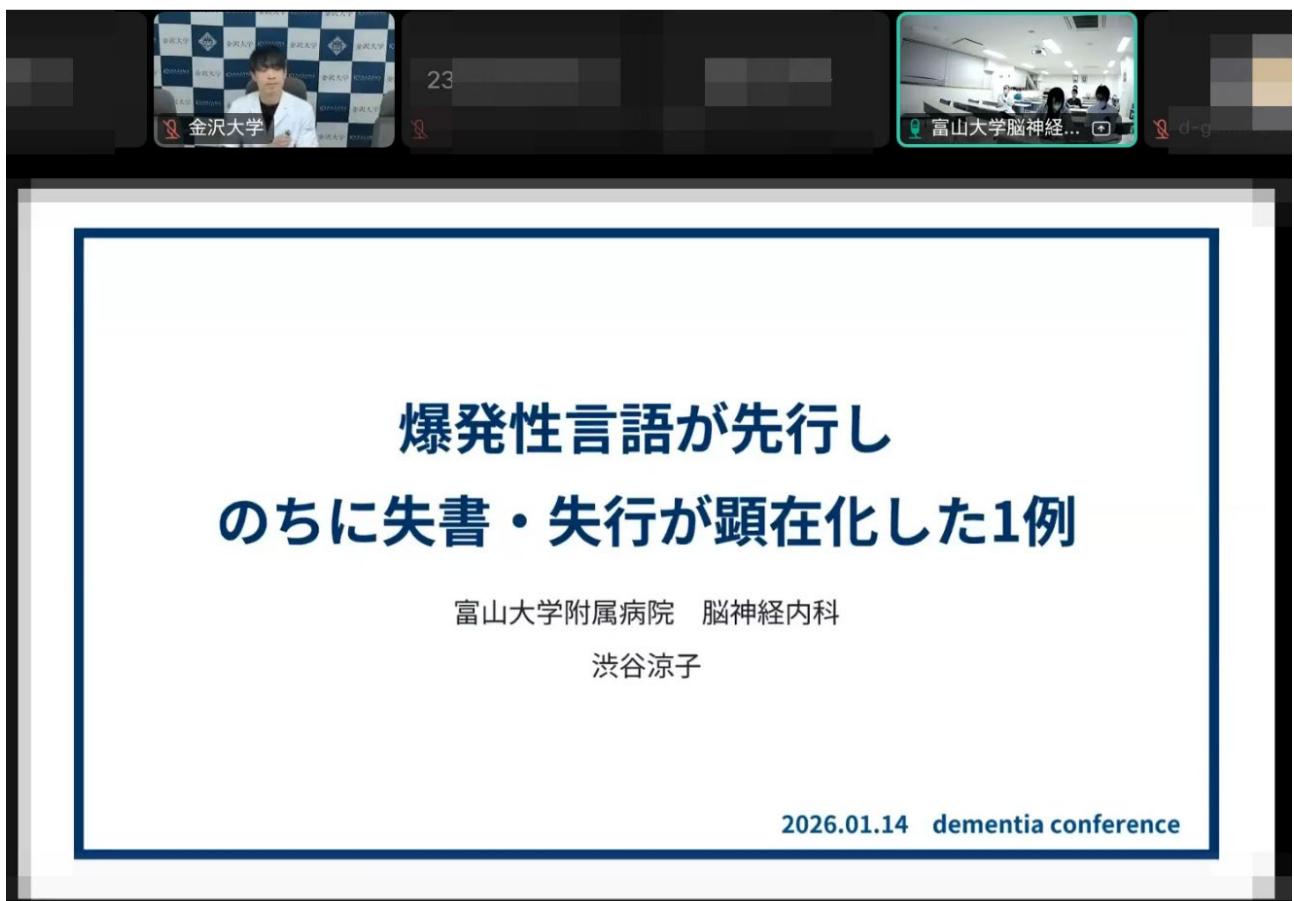
第116回デメンシアカンファレンスを開催

2026年1月14日

1月14日（水）に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第116回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「爆発性言語が先行し、後に失書・失行が顕在化した1例」のタイトルで、富山大学からの症例報告で進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子とスライド



第 116 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『爆発性言語が先行しのちに失書・失行が顕在化した 1 例』

発表者：渋谷 涼子（富山大学附属病院 脳神経内科）

司 会：林 智宏（富山大学附属病院 脳神経内科）

【要 旨】

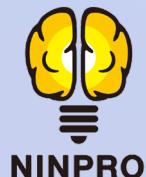
約 10 年前から構音障害が緩徐に進行した、74 歳の女性。3 年前からは右手の巧緻運動障害も出現した。2 年前に 2 度入院し、爆発性の発話と右手の軽度の企図振戦、NAE 抗体陽性から橋本脳症（小脳型）と診断され、ステロイドパルス療法を実施され、ステロイド+アザチオプリン内服を継続していた。1 年前から構音障害、右手の運動がさらに増悪したため再評価を行った。構音障害を除く四肢・体幹・眼球運動には小脳性運動失調の所見は認めず、右手の運動障害は肢節運動失行と考えられた。発話については仮名のみの錯書、努力性の発語開始、プロソディの平坦化、構音の歪みと一貫性のない誤りを認め、非流暢型の原発性進行性失語 (nfvPPA) と判断し、原疾患は 4repeat tauopathy、特に大脳皮質基底核変性症 (CBD) と推測された。

【質問・意見】

質問： 橋本脳症と診断された当初、脳炎・脳症を示唆するような髄液・MRI の異常所見はあったか？

回答： 髄液蛋白上昇や細胞数增多などの所見はなく、MRI でも脳炎・脳症を疑う異常信号はなかった。

コメント：脳血流 SPECT では Crossed Cerebellar Diaschisis (CCD) があるようにみえる。加えて、小脳の皮質は血流低下側でやや脳溝が目立つ。当初小脳性運動失調のようにみえたのは、皮質障害が軽度で顕在化しておらず、CCD の影響が目立った可能性もあるかもしれない。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第116回デメンシアカンファレンス（Web）

『爆発性言語が先行し、
後に失書・失行が顕在化した1例』

2026年1月14日（水）18:30～

発表者：富山大学脳神経内科 渋谷 涼子

担当：富山大学

対象：認プロ参加施設及びその他の施設の
医療関係者（医療系大学の学生含む）

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

- 教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りしますので、記載されたURLよりご参加ください。
- 教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。
- 上記以外で参加を希望される方は1月13日までに、氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】

北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号

TEL:076-265-2149

FAX: 076-234-4208

E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL:<http://ninpro.jp/>